

こども × マナブ



川島 隆太
②ん太

未熟な脳では、勉強しても…

—川島先生はこれまで、どういった研究を続けてきたのでしょうか。

私たちは14年ほど前から、宮城県仙台市の全ての公立小中学校で学力と生活習慣を調査し、成長記録を追ってきました。インターネットの利用時間と学力の関係を調べたところ、思った以上に負の影響があると分かりました。

また子どもたちの脳の発達具合をMR

で計測し、脳の体積がどう変化したかを調べてきました。その結果「ネットに触れる頻度が高いほど、大脳の発達が止まる」という事実を発見しました。要は、脳の発達が邪魔され、未熟な脳を持ったままでは、勉強しても思うように学力が上がらないのではないか。そういう点が、研究成果に現れてきたのです。

—先生は「スマホが学力を破壊する」「オンライン脳」などの著書でデジタル依存に警鐘を鳴らしています。

確かに、子どもが何かを学び始めると

ときには「興味を引く」ことが大事です。デジタルの映像は活字よりもとっつきやすい。

ただ、記憶するツールとしては従来型の学習に劣ります。私は「最初はデジタル、深い学びには教科書」というハイブリッドが一つの正解だと思っています。

—今の学校現場はデジタル学習に重きを置き、書く学習が減っています。

脳計測の結果を見ても、ものを考えるときに働くべき前頭葉が働かないのは

デジタル学習の致命的な欠点です。

—なぜ「デジタル学習だと脳が働かない」のでしょうか。

そこは分からないんです。私たちも研究を続けていますが、結論はまだ出ていません。数年かけて研究している間に次々と新しい娯楽が生まれ、生活スタイルが変わってしまうので、研究者が追いつけていないというのが悩みです。

かわしま・りゅうた 東北大加齢医学研究所教授。「脳トレ」ゲームの監修者としても知られる脳機能開発研究の第一人者。